



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

ピロリ菌

ピロリ菌は、人の胃の中に住み、胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんなどの原因のひとつとなる菌です。

胃の中は、胃液の中に含まれるとても強い酸のためペーハー1〜2という強酸性で、通常の細菌は死滅します。ピロリ菌もペーハー4以下では死にますが、胃の中では生き続けることができます。その理由は、ピロリ菌が「ウレアーゼ」という酵素を産生して、胃の中にある尿素を分解してアルカリ性の「アンモニア」を作ることです。酸を中和し、自分の周りに酸性ではない中性の環境を作り出すことができるためです。

感染経路は、食べ物や飲み物と一緒に口から入ってくると考えられますが、ピロリ菌が胃に定着するためには、まず初めに胃酸に耐えて生き延びる必要があります。そのため、

胃の中の酸性が弱い幼児期に感染することが多く、酸性が強くなる大人になってからはほとんど感染しません。また、上下水道が十分整備されていなかった時代に幼年期を過ごした中高年以上の感染率は高いのですが、衛生環境が整った世代の感染率は低くなっており、感染予防にあまり気を使う必要はないと思われます。ただし、親から子どもへの食べ物の口移しなどは、親がピロリ菌を持っていた場合に子どもへうつす可能性もあるので注意したほうがよいでしょう。

ピロリ菌は、一旦感染すると除菌をしない限り一生住み続けますが、除菌に成功すれば、よほどのことがない限り再感染することはなく、ピロリ菌が関係している病気のリスクは大きく下がります。除菌の方法は、2種類の抗菌薬と胃酸の分泌を抑える薬を7日間続けて服用することでおこないますが、飲み忘れると除菌に失敗することがあるので、忘れずきちんと服用してください。ただ、

飲み忘れずに服用していても除菌ができないことがあります。その場合は、治療薬に対して耐性を持つピロリ菌であることが多いので、抗菌薬の種類を変えてもう一度除菌を試みることがあります。

ピロリ菌除菌療法の副作用は、下痢や便が軟らかくなったり、食べ物の味がおかしいと感じる「味覚異常」が起こったりします。服用を中止すると除菌に成功しにくいので、軽い副作用の場合は最後まで服用を続けたほうがよいでしょう。しかし、症状がひどくなる場合や腹痛を伴ったり、便に血が混じるなどの副作用の場合は、主治医に相談してください。

ピロリ菌除菌療法は、胃潰瘍などの方がみが保険適用でしたが、最近適用が拡大され、胃炎の方でも保険で治療できるようになりました。胃の症状に悩まれている方は、一度医療機関で相談してみてください。

(北区 薬局エヒラファーマシー)

松本 博志